首都圏3環状道路

· 圏央道は首都圏3環状道路の1つであり、都心から約40~60kmの圏域を環状に連絡する延長約300kmの道路。



圏央道の整備効果(道路ネットワーク強化)

- ・現在、神奈川県の東西方向の交通は、東名・保土ヶ谷バイパスなどに頼っており、渋滞が慢性化。
- ·圏央道(金沢~戸塚)の整備により、神奈川県の東西軸の複線化が実現。
- ・広域交通についても東西方向を中心に円滑化・定時性が図られ、広域周遊ルートの移動円滑化に期待。



圏央道の整備効果(物流の効率化)

- ・圏央道(金沢〜戸塚)の整備により、京浜港(東京港・川崎港・横浜港)と背後圏との広域交通ネットワークが形成され、 交通分散が図られることで、輸送時間短縮、定時性向上等の物流効率化に期待。
- ·新東名高速道路(海老名JCT〜御殿場JCT)や港湾整備と相まって産業の国際競争力強化に期待。

京浜港と背後圏との円滑な物流を実現する広域交通ネットワークの形成



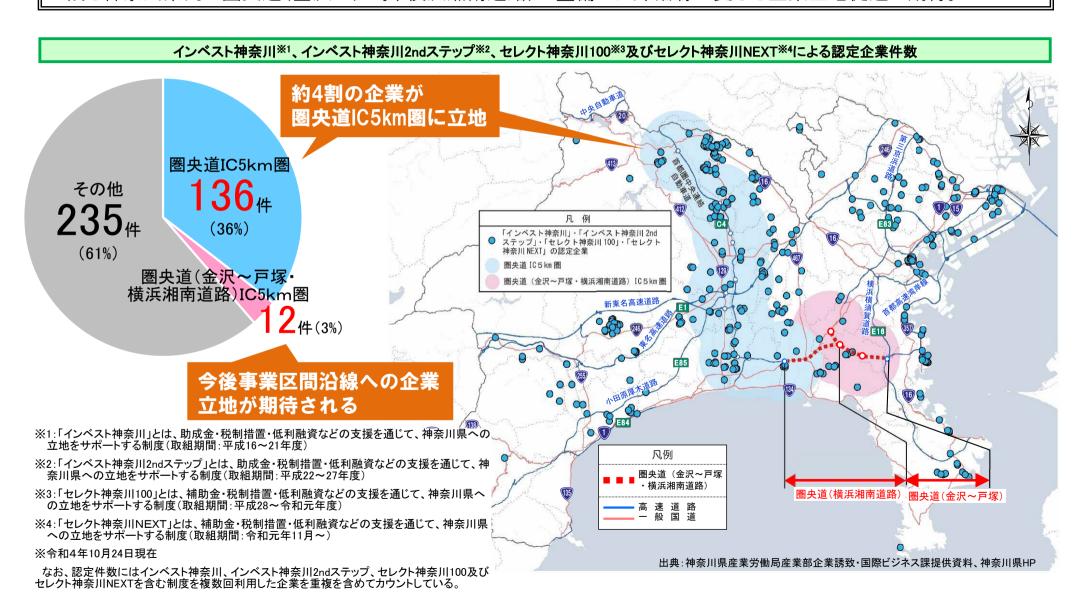
- ※1)平成22年8月、「民」の視点の港湾運営、コスト低減策、国内貨物の集荷策などの具体性、計画性、実現性など今後の伸びしろを重視する選定基準により、国際コンテナ戦略港湾として阪神港及び京浜港を選定
- ※2)中日本高速道路株式会社 E1A 新東名高速道路(海老名南JCT〜御殿場JCT間)連絡調整会議(第5回)開催結果について https://www.c-nexco.co.jp/corporate/pressroom/news_release/5591.html
- ※3)国土交通省関東地方整備局 京浜港湾事務所 横浜港 南本牧ふ頭地区国際海上コンテナターミナル整備事業 https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/keihin/business/honmoku-mc3/index.html

- ・東名高速、保土ヶ谷バイパスに集中する交通を、圏央道(金沢〜戸塚)経由のルートで分担。
- ·郊外から東京都心部への交通を分散導入し、ルート選択の拡充、 物流の効率化、リダンダンシーの確保に寄与
- ・整備の進められている新東名は、圏央道に直結する予定。



圏央道の整備効果(企業立地の促進)

- ・神奈川県の企業誘致施策である「インベスト神奈川※1」、「インベスト神奈川2ndステップ※2」、「セレクト神奈川100※3」及び「セレクト神奈川NEXT※4」により事業認定された企業のうち、約4割が圏央道IC周辺に立地。
- ▶残る神奈川県内の圏央道(金沢~戸塚、横浜湘南道路)の整備により、沿線の更なる企業立地促進が期待。



神奈川県内の圏央道

- ・神奈川県内の圏央道については、さがみ縦貫道路・横浜湘南道路・高速横浜環 状南線の3路線で構成され、中央自動車道・東名高速道路や整備が進められて いる新東名高速道路と東京湾岸地域等との連携強化を図る自動車専用道路で す。
- ・圏央道の開通により、広域的な高速道路ネットワークが形成されると共に、国際 競争力と成長を支える道路として、沿線の企業立地等による地域産業の活性化 や、広域的な観光交流の実現による新たな観光需要が期待されます。
- ・また、国際コンテナ戦略港湾である京浜港(東京港、川崎港、横浜港)や羽田空 港(国際空港)を支えるネットワークが構築されることにより、物流の効率化にも貢 献します。
- ·なお、さがみ縦貫道路については、平成27年3月8日に全面開通しました。

